

平賀讓日記 — 昭和十五年一月〜十二月 —

中野 実

凡例

- 一、復刻に当たって、漢字は原意をそこなわないかぎり現在一般に使われている簡略体を用いた。また、文中の「崎」の表記が山崎と離れていたが、崎に統一した。
- 二、明白な誤字、脱字、宛字などは脇に「」で示した。
- 三、本文中判読不能、欠けている箇所は□で示した。
- 四、「」（龜甲括弧）は編者注である。なお、日付のあとに表記した「」内の○・△印は日記の日付に記されていた。
- 五、本文は横書きである。本紀要の体裁に倣い、縦組みに直したため、数字など読みづらい表記になったことをお詫びする。

昭和十五年

一月三日（水）

熱海東山館（宏海荘）へ

一月六日（土）

伊東小川、豊泉閣別館（泉荘）

一月八日（月）

江口（重国）氏来訪

一月九日（火）

湯河原へ

一月十日（水）

11.32 - 1.42 帰京

一月十二日（金）

学士院、教〔育〕審〔議会〕

一月十四日（日）

2. p.m. 三樹挙式

5. p.m. 〃 ヒロウ

学士会

一月十六日（火）

1 1/2、水交社、講師会

Panama dock (昨年ヨリ6年計画 二億六千万弗188、B)

一月十七日(水)

七日会(中川) 6. p.m.

一月二十日(土)

5 1/2、東京会館へ永村氏婚儀

5 築地216、宝塚(三樹)

一月二十二日(月)

5. p.m. 学振理事会

10. p.m. 上野発

一月二十三日(火)

御講書初

一月二十四日(水)

4. 30 水交社、国防科学協議会

一月二十六日(金)

5 1/2 p.m. 水交社(江口氏送別)

一月三十日(火)

4 1/2 p.m. 洋々会

二月七日(水)

正午—一時葬儀(石本氏)

二月九日(金)

大学制度(臨時審査)委員会

部長会議(2600年紀念事業)

重光氏へ弔問

二月十日(土)

林安課長来

医部長、坂口、東、会議

重光氏方会葬

上海研究所
塩谷分院長来

二月十一日(日)

奉賀式(9.0)

二月十二日(月)

学士院

医工農農部長会議(上海研究所ノ件)

舞出、上野来

二月十四日(水)

坂本北支文化局長来訪

経済(学部)教授会

二月十五日(木)

11. a.m. 有終会理事会

赤間(信義文部) 次官来訪

二月十六日(金)

4. a.m. 男子出生、日出度シ

780 匁、40 cm

二月十九日(月)

総会

二月二十一日(水)

3 1/2、共済事業委員会写真

経済学部教授会(学部内規決定)

二月二十二日(木)

七夜ノ祝、健(タケシ)ト名ケ

二月二十五日(日)

6. p.m. 東京会館、内田結婚

二月二十六日(月)

総会(大学制度) 1. p.m.

二月二十七日(火)

学振理事会 5. p.m. 法曹会館

洋々会 4 1/2 p.m.

二月二十八日(水)

4 1/2、偕行社(国防科学) 有島徹砲大佐

経済教授会(人事)

森(莊三郎) 学部長、荒木(光太郎) 評議員推薦

二月二十九日(木)

9. 40 a.m. 発令

(自分ノ事ム取扱免ゼラル)

昨年二月廿一日命

三月十二日(火)

学士院

三月十三日(水)

○経済学部宴会 5. p.m. 懐徳館

三月十五日(金)

11. a.m. 有終会

三月十六日(土)

竹田宮大妃殿下御葬儀

(9. 40 迄二豊島岡へ)

三月十九日(火)
教養委員会 1. p.m.

三月二十日(水)

前田家婚儀、5. p.m. 軍人会館

三月二十一日(木)

5. p.m. 学士会、二八会

三月二十二日(金)

1. p.m. 本学々術史委員会

6. p.m. 新橋古今亭(船舶工学謝恩会)

三月二十四日(日)

工学部会、5 1/2 花鳥(カチャウ)

三月二十六日(火)

1 1/2、有終会、11. 0 評議員会

5 1/2、本川家婚儀(5 1/2 p.m. 軍人会館)

三月二十八日(木)

東亜文化協議会宴会(紅葉館) 6. p.m.

3. p.m. 科学振興(文官邸)

三月二十九日(金)

1 1/2、理事会

学振理事会、評議員会(華族会館) 3 1/2 p.m.

10. A.m. 東亜文化医学部会(学士会)

4. 15 洋々会

三月三十日(土)

10. a.m. op

9. // 卒業式

興亜院主載、東亜文化宴会(6. 星ヶ岡)

四月一日(月)

血沈 昨日 本日

30分 昨年九月 W47.950

1 h 66 34 15 1 昨年九月 47.750

2 117 89 66 105 41 15 1

四月二日(火)

工学部総会(9-12、1 1/2-5.10) 大講堂

6. p.m. 晚餐会

四月三日(火)

造船協会 9 1/2-5. 00 (法文経2号館二階36)

四月四日(木)

6. p.m. 造船協会晚餐会(山上御殿)

四月九日(火)

5. p.m. 芝浦新田丸 dinner

四月十日(水)

教審 1 1/2 p.m.

四月十二日(木)

学士院

四月十三日(土)

10. a.m. 学士会館 東亜文化理工学会
文元損阮尚□ 松村文化部長来訪

6. p.m. サガノ

四月十四日(日)

6. p.m. 星ヶ岡(東亜文化)
永井(浩) 専門局長来訪(自宅)

四月十五日(月)

10 a.m. 学士会館(東亜文化理工学部会)
興亜院

1. p.m. 理事会(全) 11. 0 有終会

6. 〃 興亜院ヨリ招待(紅葉館)

四月十七日(水)

Mexico 使節団 2. p.m. (カイ徳館)
3 1/2 小石川植物園

7. 紅葉館

四月十九日(金)

学術研究会議総会(9 1/2 精養軒)

四月二十二日(月)

三井武夫婚儀(東京会館) 2 1/2 p.m.
西条八十氏令嬢ふたば子

四月二十三日(火)

総会(制度)

総会、有終会 11-12、講演、晚餐昼餐
3. p.m. サンポール^{スウェーデン}大学生来学

5. p.m. 学振霞山会館

四月二十五日(木)

靖国大祭

四月二十六日(金)

近藤海事財団 常盤家

3 1/2 理事会
5 評議員会

四月二十七日(土)

4 1/2 洋々会

午前大村氏来訪

四月二十八日(日)

10 1/2 高等農林落成式

四月二十九日(月)

天長節(挙式セズ)

四月三十日(火)

昭和会(神田、治作)

1. p.m. 大学第一特別

4. p.m. ^(3.4)

五月二日(木)〔△〕

2. p.m. 大阪ビル内レインボーグリル

日本文化中央聯盟

有終会講師会 1 1/2 p.m.

1. p.m. 独大使ヨリ招待

五月四日(土)〔△〕

武富氏披露会 5 1/2 学士会館

聯合学部会(休日)〔五月祭〕

五月五日(日)

造船級友会(水交社) ¥ 3 昼飯 11. a.m.

五月六日(月)

1. p.m. 大学制度総会

1 1/2 星撰会(水交社) 1 欠

五月七日(火)〔○〕

夜、七日会(中川)

吉田孝太郎(設計部長、J.P.C.I.N.) 大正四年

五月八日(水)〔○〕

経済学部会(山崎謝恩) 5 1/2 懷徳館

五月九日(木)

丁友会

五月十日(金)〔○〕

6. p.m. 帝国ホテル、長与氏結婚

五月十一日(土)〔○〕

陸上運動会 休

岩垂氏ヨリ招待(紅葉館) 6 1/2 p.m.

五月十三日(月)〔○〕

学士院総会

五月十四日(火)〔○〕

2. p.m. 学士院授賞式(2 1/2 開式)

4. p.m. [工学部航空学科] 風洞竣工式 [海防義会の寄付による]

五月十五日(水)〔△〕

11. p.m. 有終会(欠返)

宮中賜餐

五月十六日(木)〔○〕

3 1/2 p.m. Shakespear Prize [田中俊夫受賞]

○ Mexico

五月十七日(金)〔○〕

○ Mexico 使節ヨリ招待、帝国ホテル

帝国ホテル、7 1/2 p.m.

五月十八日(土)〔○〕

10. 30 a.m. (農業大学五十年記念式) 日本青年館 梨本宮殿下台臨

6. p.m. 全上、東京会館

Mexico mission 帰国

五月十九日(日)

帝大 boat race

五月二十日(月)〔○〕

小野寺婚儀、5 1/2 p.m. 学士会

予算、提出時期

大学総会

五月二十一日(火)〔○〕

谷、志村会、学術総会

五月二十二日(水)

青少年学徒勅語 10-12、代々木

10 参集

五月二十三日(木)〔○〕

6. p.m. 海相ヨリ招待(官邸)

正午帝国ホテル(小林総督)

3. p.m. 松平(恒雄) 宮相訪問(宮内省) 一行幸ノ事

五月二十四日(金)〔○〕

赤池氏結婚 5. p.m. 帝国ホテル

五月二十五日(土)〔○〕

5. p.m. 検見川へ(検見川総合運動場初見分)

稲毛、一二三やニテ夕食ニ招カル(市長ヨリ)

五月二十六日(日)

午前中ニ宮城前勤勞奉仕(職員學生三七〇名参加)

五月二十七日(月)(○)

7. 55⁽¹³⁾ 帝国 Hotel 宴会場 Cambridge × Oxford Society
1. 00 Taxeid⁽¹⁴⁾ / 黒蝶ネクタイ、黒チヨツキ (Smoking)

五月二十八日(火)

有坂、矢吹両夫人、秀邦氏来訪

五月二十九日(水)

学振理事会 5. p.m. 法曹会館

五月三十一日(金)

4 1/2 帝国ホテル 岩倉道侯
矢吹男 } ト会见

六月一日(土)

早慶戦

六月三日(月)(○)

高校長招待 5 1/2 p.m. 同 4 1/2 p.m. 懇談会

六月四日(火)(○)

正午 A1ニテ岩倉、矢吹見合

7. p.m. 総理官邸(有田(八郎))外相ヨリ招待)

六月五日(水)(○)

草水会(5. p.m.)—小林総督
夜矢吹氏訪問

六月六日(木)

○高木(八尺)教授(米國大使招待) 3 1/2 p.m.
文部次官来訪

六月七日(金)

文部次官ト会见(行幸ノ事)

六月八日(土)

大月發 1. 33 新 3. 30
" 3. 33 5. 26

六月十日(月)

大学制度委員会
4. p.m.

六月十一日(火)(○)

評議會、大学制度
兄弟会—水交社—5. p.m.

六月十二日(水)(○)

6. p.m. 関口君カ^(マ)ン迎会(築地錦水)

六月十三日(木)〔○〕

6 1/2 p.m. 桑名

学術大観委員会、3. p.m.

六月十四日(金)〔○〕

1. p.m. 東亜文化(医) 学士会

六月十五日(土)〔○〕

山中行(各部長)〔山中演習林視察のため〕2 1/2、新宿発

六月十七日(月)〔△〕

11. 0 理研理事会、11 1/2 評議員会

(工業クラブ)

午後1. 0 大学制度委員会

4. 0 〇〇委員会、3. 00 部長会議

六月十八日(火)

予算会議(1. 0)

全学委員会(3. 0)

六月十九日(水)

1 1/2 有終会講師会

六月二十日(木)

〇3. p.m. 総合試験所建設委員会

六月二十一日(金)〔○〕

日鉄、6. p.m. 帝国ホテル

六月二十四日(月)〔△〕

10. 造船事業委員会(通、第一会議室)

1 1/2 国精動(首相官邸)

5. p.m. 学振、法曹会館(欠)

11 1/2 a.m. 日下財団評議員会

洋々会 3. p.m.、4 1/2

六月二十五日(火)〔○〕

4 1/2 国防科学(借行社)

六月二十六日(水)〔○〕

6. p.m. 学士会館山県祝賀式

六月二十七日(木)〔○〕

東亜文化協議会

2. 0 理事会

4. 0 評議員会

9 1/2 宮内省ヨリ

六月二十八日(金)

4. p.m. 学術史委員会

六月二十九日(土)〔△〕

学研、〔臨時〕総会 2. p.m. (上の精養軒)〔平賀、会長に就任〕
工学部会 10 a.m. " " "

七月一日(月)

1 1/2、首相官邸、精勤

七月二日(火)〔〇〕

造船会 5. 30 水交社

七月三日(火)〔〇〕

4-6、学術史

5 1/2 蘭亭(興亜院)

七月四日(木)

1 1/2、有終会講習会

七月五日(金)

教審、特〔別〕委員会 10. a.m. 文部大臣官邸

七月六日(土)〔〇〕

p.s. 10 a.m.

5. p.m. 芝公園外浪速屋(東亜文化)

七月八日(月)〔〇〕

10. a.m. op

2. p.m. 造船事業法特別委員会(通、第二会議室)
七日会、6. p.m.

七月九日(火)

学研、4. p.m. 学士院

七月十日(火)

1 1/2 p.m. 教審

七月十一日(木)〔〇〕

9. a.m. 総長会議(大臣官邸)

七月十二日(金)〔〇〕

学士院 5. p.m.

七月十五日(月)

15、16 会計課長(文部省へ) 予算説明

11. 0 有終会理事会

七月十六日(火)

1 1/2 部長会議

七月十七日(水)

造船協会

1 1/2 p.m. 有終会講演会(水・新館)

七月十八日(木) (○)

4 1/2 p.m. 洋々会

七月二十日(土)

教審総会(止)

七月二十二日(月)

10 a.m. 通第一会議室(造船委員会)

八月一日(木)

3 p.m. 東京発

八月二日(金)

40分遅レ門司ニテ急行ニ乗り遅レ 11:40 発 7.12 長崎着

小川所長出迎ヘラル、上の屋(姫野)ニ投宿

八月三日(土)

8 1/2 造船所へ

800、900、造キ工場ヲ見ル、夜向陽亭ニテ小川所長、副長ニ招待セララル

八月四日(日)

渡辺氏外十学士位ニテ舟遊ビ(伊東島付近)釣ス、三尾釣ル、河南造船所ヲ外ヨリ見ル。夕食大浦三菱邸ニテ招待サル東大学士二十人位

八月五日(月)

午前八幡丸ヲ見ル

2.40 発、6.18 博多着、謙一迎ヘニ来リ共ニ松島屋ニ泊ス、夜散歩ス。

八月六日(火)

6.24 分発ニテ謙一二駅ニテ分レル。

1.53 分着、水交社へ。

工廠へ一号艦ヲ見ル。

夜、日比野長官ニ招待サル(水交社)

八月七日(水)

製鋼部(佐々川中佐)

造キ部(甘理中佐)

造船実験部(小岩中佐)

夜造船部員ニ招待セララル

見学

八月八日(木)

一号艦 Launch (一)の日、戦艦大和の進水式

八月十二日(月) (○)

○ 4 p.m. 東亜文協(学士会)

八月十五日(木)

10 a.m. 小泉総長

八月十六日(金)

9-10、河合匡士来宅

八月十九日(月)

1 1/2 p.m. 文部省第一会議室

八月二十二日(木)

10:40 富田(健治)書記官長来訪、新体制準備委員、交渉ヲ受ク、諾。⁽⁶⁾
第一会 24th 午后ノ予定

八月二十六日(月)

10-1、穂積(重遠)、今井(登志喜)、森(莊三郎)、寺沢(寛一)、
坂口(康蔵)、田中耕(太郎)、橋爪(明男)、東畑(精一)
東京発(但し赤線にて抹消)

八月二十七日(火)

神戸発(正午)モンテビデオ丸(7250T)(但し赤線にて抹消)

八月二十八日(水)

11:20 宮内大臣訪問
2.p.m. 新体制準備委員会I。
門司発(但し赤線にて抹消)

八月二十九日(木)

京城学術協会(総会)

八月三十日(金)

ロ部会
大連着 0-1/2、4-55 発、10-55 奉天着

八月三十一日(土)

ロ部会
8-10 奉天発 a.m.
北京着 10:40 p.m.

九月二日(月)

○東亜文化協議会(北京)

九月三日(火)

○II、新体制準備委員会

九月四日(水)

○2.p.m. 科学動員協会発起人会

九月六日(金)

III、新体制準備委員会
〔但し、ローマ数字IIIの下に鉛筆書きで「出發」とあり〕

九月十日(火)

IV、新体制委員会
行幸御内定発表(宮内省)

九月十一日(水)
1 1/2 p.m. 教審

九月十二日(木)
2 p.m. 部長會議

九月十三日(金)
V、新体制委員会

九月十四日(土)
11 a.m. 有終会
午后一時行幸委員会

九月十六日(月)
2 p.m. 宮内省側 10人
警シ庁 3、憲兵 3、近工將校

九月十七日(火)
5 p.m. 学振
最終新体制準備委員会(11-12)

九月十八日(水)
3 p.m. 橋爪君

九月十九日(木)
10 a.m. 教審總會(總理官邸)

九月二十日(金)
6 | 11 1/2 大臣邸(科学院)
教審

九月二十一日(土)
10 | 5 (但し鉛筆にて抹消)
有終会 5.0 水交社

九月二十四日(火)
評議會

九月二十六日(木)
綜合試験所竣工式

九月二十七日(金)
6 | 9、学士会(科技協会)
4 | 6、洋々会

九月二十八日(土)
4 p.m. 日伊協会(華族会館)
10 a.m. ろぼ予行
2 p.m. 総務課長、侍従、書記官等來所

十月三日(木)

教レ_ン査閱

4. p.m. 水交社(海軍当局談)

十月八日(火)

行幸(9-32 153-20)

御陪食

参内御礼、内大臣、宮内大臣へ礼

十月九日(水)

文相、文次官ニ専局長ニ礼

警視總監へ礼

教審

十月十日(木)

宮内大臣、次官へ礼

十月十一日(金)

観艦式、6.55 東京駅発

十月十二日(土)

5 p.m. 学士院

9-10 大政翼賛会発会式

十月十五日(火)

有終会講演

艦政本部長訪問、評議会

十月十六日(水)

有終会見学(横浜航空隊、184飛行機 石川島 Motor)

十月十八日(金)

靖国神社臨大祭 10. 参着

十月十九日(土)

部長会議

谷村氏来訪

十月二十一日(月)

1 1/2 p.m. 学研、工学部会(学士院)

10. " 応力委員会

1 1/2 p.m. 科学振興会

十月二十二日(火) [〇]

(学研) 総公部会、4. p.m. 学士院

十月二十三日(水) [〇]

懷徳館 水曜会(欠)

正力社長来訪(金五万円寄附)

十月二十五日(金)〔○〕

石原忍氏退職紀念会 2 p.m.

山内(鎮一)教授葬儀 2-3、講安寺

十月二十六日(土)〔○〕

洋々会 4 p.m.

十月二十八日(月)〔○〕

総長會議³² a.m. 文部大臣官邸³³

十月二十九日(火)〔△〕

5 p.m. 学振 評議會(2 p.m.)

正午学士会招待

十月三十日(水)

教育勅語五十年紀念典

明治神宮参拜

3.0 東京駅発

十月三十一日(木)

長崎

十一月一日(金)

長崎

十一月二日(土)

長崎

十一月三日(日)

参賀(9.0-4.0)

7 1/2 a.m. 帰京

明治節祝賀式(9.0)

十一月四日(月)〔○〕

5 1/2 p.m. バンスイ軒ヒルハウス会

9 1/2 a.m. 国学院大学五十年紀念式

十一月五日(火)

1 1/2 p.m. 科学振興会(文部省)

十一月六日(水)

3 p.m. 評議會

11.0 村田(省藏)遞相二面会

十一月八日(金)〔○〕

9 1/2 p.m. 東京工大六十年紀念式

有終会、支部長會議、9-15、5 1/2 つかさ

十一月九日(土)

9.45 開会 10. 海軍当局講演(有終会)

十一月十日(月)〔○〕

5. p.m. 一高寄宿寮

10. 0 紀元節式典

9. 20 宮内省―賀表捧呈

十一月十一日(月)

1. 0 紀元節祝典

十一月十二日(火)〔○〕

学士院

6. 1/2 東京市長祝宴

十一月十三日(水)

10. a.m. 大政会(首相官邸)―12: 30

十一月十四日(木)〔○〕

評議会 4. p.m. (郵船クラブ)

十一月十五日(金)〔○〕

造船 Pocket book 総会、5. 1/2 水交社

11. 0 有終会理事会

8. p.m. 水交社(田路順氏)

十一月十六日(土)〔○〕

造船協会見学

5. 1/2 p.m. 真の博士招待、2. 1. 0 全会

1. 2 " " (工業クラブ)

十一月十七日(土)〔○〕

造船協会総会

// 晩サン会 6. p. 3. 3 鉄道協会

十一月十九日(火)

富士裾野ニテ査閲

十一月二十日(木)〔○〕

科学協議会、4. 1/2 偕行社

十一月二十二日(金)〔○〕

東亜文化協議会理事会 4. p.m.

十一月二十五日(月)〔○〕

4. 1/2 p.m. 学研研究会議総ム部会(明年一月十五日木、4. 1/2 p.m.)
谷家披露(5. 1/2、帝国ホテル)

十一月二十六日(火)〔○〕

草水会(5. p.m.)

洋々会(4. p.m.)

十一月二十七日(水)〔○〕

水曜会

星曜会

十一月二十八日(木) (○)

5.p.m. 学振

戊寅会 (5.0 紅葉館)

十一月二十九日(金) (△)

造船クラブ会 (創立総会)

3.p.m. 運動会理事会

十一月三十日(土)

総合試験所披露

風洞

十二月一日(月)

放送協会 (8.55 ~ 9.05)

十二月三日(火)

応力委員会 10.a.m.

十二月四日(水)

3 1/2 p.m. 大使 (総長ハ3.45 図書館へ)

十二月五日(木)

8.a.m. 西園寺公園葬 (内幸町公会堂)

十二月六日(金)

工学部昭和会 (なにはや)

岩倉家披露 15 1/2、帝国ホテル

十二月七日(土) (△)

11 p.m. 聖徳奉讃会 (久邇宮殿) 『朝日新聞』昭和15年12月8日付記事有り

事有り

十二月八日(日) (○)

5.p.m. 芝三緑亭 (菌部部長長女披露)

仙台高工ノ教授 (応化)

十二月九日(月) (○)

有終会 Lecture's 浅田氏千島

理事会

岡崎忠雄氏招待

1 1/2 (科学振興) 大臣官邸 1 1/2

十二月十日(火) (○)

6.0 学士会館 (帝大新聞、二十週年記念会)

4.p.m. 工業クラブ (海防義会)

十二月十一日(水) (○)

査閲官招待 (カイ徳館)

十二月十二日(木)〔○〕

造船協会慰勞会 6.p.m.(幸樂)

11.A.M. 動員協会發会式(帝國ホテル)

十二月十三日(金)〔○〕

5 1/2 中央亭(文相)

10.a.m. 大政翼賛総ム会

十二月十四日(土)〔△〕

正午造船クラブ午餐会(第二月曜)

第三土曜

十二月十六日(月)〔○〕

平出大佐時局会(有終会)

5.p.m. 有終会(つかさ)

10.a.m. 理事会

十二月十八日(水)〔○〕

科学協議会(水交社)、4-30

十二月十九日(木)〔○〕

工学部忘年会

たつえ

10-11、藤原氏来訪

十二月二十日(金)〔○△〕

総長忘年会

11 1/2 理研理事会(工業クラブ)

5.p.m. 学振理事会

十二月二十一日(土)〔○〕

4.0 洋々会

十二月二十三日(月)

有終会臨時評議員会

十二月二十四日(火)〔○〕

4.p.m. 東亜文化、医学部会(学士会)

十二月二十五日(水)〔○〕

河東、豊島披露会、結婚式

十二月二十七日(金)

夕 文部大臣官邸

十二月二十九日(日)〔○〕

造船三鈴会(南浦園) 5 1/2 p.m.

一月一日大学 9-20

淺の侯爵
隱居届

[巻末メモ]

6-19 有終会講師会
一課長

十月 Iowa (45000⁷) 起工
速ニ N.J " "

[改頁]

Steel (英)

April, 1940

bars £9-5-0

plais 12-15-6

ウス板 14-10-0

[改頁]

日本文化協会 (理事長文部次官)

菊地 (豊三郎) 長官出席

近藤 (寿治) 指導部長司会

警視庁特高第一課長

" "

中村絹次郎

其ノ思索ヲ精ニシ其ノ識見ヲ長シ執ル所中ヲ失ハズ嚮フ所正ヲ謬ラズ各其ノ本分ヲ恪守シ

[改頁]

16-8-3

9 1/2 am.
36 五百三十万

第一次 條約量
二次 25% } A
三 11% of above
緊急国防

第一次 } Aヲ急速実現セリ
" 二次

四 23.5 of above

スターク □ 1.7 A

B.S. 現 四次 (1944)
Carrier 6 29

Cr 37 15

T.B.D 219 65

1947完成

艦台 6

Washington (June 1 landen) 35000
N.C. (any ")
S.D. " "
Miss " "
Indiana " "
Alabama " "

(29、四百八十万)

L. force 720^T F.0.0165

~~~~~  
7千数百噸

~~~~~  
二百十萬本、二月

噸 L. W. 42600

ballast water 3300

Rivels 5, 200, 000

weight ' diff. 30^T only

GM, 30m/m位低、^g70m/m Hog.

造船部 800人

armorplato 約5,200、80^T

1500^T press, 300^T crave

(Total W, 3500^T)

月産 1800^T位

[改頁]

ビルマ以東

New Caledonia 以北

} 大東亜

(兼) Newzealand India へ各12ス)

[改頁]

大熊大佐

15-11-9

米拡張 (艦齡内 3,049,000^T)

1947 完成ト称ス

(我ハ1949ト認ム)

飛行機 常備 50,000 (内海 15,000)

年額 50,000

主 35隻 1,045,000^T

航母 20 454,500

巡 88 899,524

T. B. D 378 478,300

S 180 172,956

701 3,049,480

艦^艦レイ外ヲ 艦レイ内

含ム

毎年水兵応ホ者アリ 1割 (15,000) ヲ採ル

○海運ハ陸運ノ1/20經營

○4,500,000 国内 1,300,000^T

富鉄所 } 要額

印欄 } 銀行 200人 Experts

農事指導者 12,000 "

独ニ Dodd 部長 (経営)

昭和十五年記注

(一) この日の江口氏(書記官、庶務課長)の来訪目的は辞任の挨拶と思われる。この月十二日付で江口氏は福岡高商校長に転任していた。彼は小野塚喜平次、長与又郎、佐藤寛次、平賀讓の歴代総長(事務取扱を含む)とともに大学行政に尽力した。その主な事象は、一、三回に亘る総長選挙事務、二、運動会規則改正(昭和三年)、三、行政整理問題(昭和六、七年)、四、五十年史刊行、五、農学部移転(昭和十年)、六、三大節式典挙行(昭和十一年)、七、荒木貞夫文相による大学改革問題(昭和十三年)、八、経済学部問題(昭和十四年)、などである。江口氏の略歴は以下の通り。明治二十一年三月二十七日佐賀県佐賀市に生まれ、大正四年熊本第五高等学校第一部を卒業し、大正七年東京帝国大学法科大学法律学科を卒業。大正九年長崎高商講師となり翌年には教授に昇任し、一三年北海道帝大予科教授として北海道に移り、同年七月北大事務官、昭和二年には同大書記官となり、その翌年九月に東京帝大書記官になっていた。

(二) この会議は学部長会議と考えられる。同会議の戦前期における性格、開催頻度、機能などは『東京大学百年史』(通史一)以下百年史については『通史二』というように略記)中「評議会・教授会・学部長会議等の整備」に詳述されている。ここでやはり注目されるのは、戦時下の国民統合を目指した紀元二千六百年奉祝の記念事業などが、評議会上がる二月二〇日のその前に学部長会議に掛けられている事である。平賀は前年の大学制度臨時審査委員会(前号、注12参照)において「学部長ノ会合ヲ毎週一度位開催シタキ旨」希望を述べており(『通史二』、二九八頁)、積極的な活用的一端が知られる。これ以降、奉祝記念事業計画は具体化していき、その一つが本日記にも記述(六月二三日、六月二八日)のある「学術史(大観)委員会」による『東京帝国大学学術大観』の編纂であった。

(三) 昭和十二年二月二五日、日本文化講義開設並びに学生訓育関係事項に

就き協議、打ち合わせをする委員会として、評議会で設置が承認され、翌年三月二日正式決定された。昭和一六年三月、全学会にその業務を移管して廃止された。

(四) 大正七年以来二三年振りの行幸に関する記事。また紀元二千六百年関係行事の一つである。当然のことながら、この決定は内密に行われたため、百年史編纂当時いつ頃からこの動きが始まったか不明であった。この日記によりようやく時期が確定され、内定後(九月一〇日)委員会も設置され、さまざま動きがあったことも判明した。平賀は「もし万一のことがあったら、大講堂の屋上から投身自決する」と家族に言い渡していたという(当日の模様を含め、行幸の様子については内藤初穂「軍艦総長平賀讓」(文芸春秋、一九八七・一一、二八七)二八八頁参照)。

(五) この年最初の帝国大学総長会議である。議題は一、昭和十六年度予算編成方針、二、科学振興、三、学生の訓育指導、の三点である。出席は東京、京都、東北、九州、北海道、名古屋、大阪(理化学部長の代理出席)である。議題中、予算編成方針は不明だが、一の科学振興は基礎研究の重視と大陸に関する研究者は第一線にまで出て軍とともに行動するようにする、という内容であり、二は前年の勅語を遵奉するのが最善の訓育方針であり、個別の事例の紹介では京都の経済学部の指導班制度が行われた。それは、学生を十五人乃至二十人を一班とし各班毎に教授あるいは教授が一名づつついて私生活まで指導する、というものである。(『朝日新聞』昭和十五年七月十二日付、朝・夕刊)尚、東大でも昭和十六年度から、指導教官制度が経済学部において行われている。(『通史二』、九五四頁参照)

(六) この日の翌日、新体制準備委員会が発足した。平賀は学界代表として、外交界代表、自治団代表(各一人)とともに、この会に「刺身のつま」(内藤、前掲書、二八五頁)のように参画した。日記にはこの後、八月二八日の第一回会合から最終準備会までの計六回の日程が記載され、各会合に出

席していた。大政翼賛会の役員名簿を見ると、平賀は総務に在る。(赤木須留書『近衛新体制と大政翼賛会』岩波書店、一九八四年一月、参照)尚、『矢部貞治日記(銀杏の巻)』には九月二日、五日、九日の総長室に於ける会合の記載があり、平賀は「準備会の審議が行われる前日には、政界や軍部との関係のある教授等を含めて数人の教授を総長室に招き会合を催していた」との指摘がなされている。(宮崎ふみ子「東京帝国大学「新体制」に関する一考察」東京大学百年史編集室『東京大学史紀要』第一号、昭和五三年二月、七二頁)

(七) この日の評議会の席上、平賀は時局に対応した学生指導、特に学内団体のあり方を審議することを提起した。これが、「全学生会設立問題の直接の発端であった。このことは東大に於て学内組織再編成に着手する前提条件がかの時にほぼ整ったことを示している。」と言われている。(宮崎、前掲書、七二頁)

(八) この年二度目の総長会議であり、出席は七帝大総長である。この会議は従来の文部省の招集によることなく自発的に懇談形式を似て行われていた総長会議とは性格を異にし、文部省で特に招集した会議であった。さらに注目されるのは、これ以降、設立主体別の総長(学長)会議が開催されたことである。すなわち、十一月七日官公立単科大学長会議(十四校参加)、同月十三日私立大学総(学)長会議(二六校参加)といった日程が組まれた。私立大学長を文部省が招集したのもこれが最初であった。これら三種の会合内容は近年刊行された『有光次郎日記』(平成一年八月、第一法規出版)に詳しい。ここでは帝国大学総長会議の議題を摘記しておこう。会議開催に先立ち、局議が行われ、題目は実に十五項目に亘っていた。それらは、「1、法経文学部ノ講座整理 2、履修科目ノ再検討 3、休講時間ノ処理―休限ノ検討 4、演習制度ノ拡充―指導教官制 5、鋳工技術員養成 6、総合大学ノ特色發揮ノ件 7、臨時措置トシテ年限短縮ノ問題

8、学友会改組 9、人事 任命ノ方法 任期 秘東京大学ニ対シ「車内デハ立テ、酔態ヲサラスナ」ヲ学生ノ矜持、武士ノ嗜トシテ、ソノ方向ヨリ風尚ノ刷新ヲナス事、高キ物カラヘリ下ルトノ行キ方。学長等ヲ委員トナス事。10、学生科ノ拡充、育英其他ノ生活問題、修練道場 11、教授ト外部トノ意思疎通ノ件 12、帝大相互間ノ聯絡 13、十六年度予算、学校卒業生使用制限並学校教練目的変更ノ件 14、制服 15、科学院問題」である。(三四四―三四五頁) 実際の会議筆記では、「教授ノ教育者トシテノ責任、学部特ニ法経学部ノ組織講座ニ関スル再検討、綜合大学トシテノ実ヲアグル方法、帝大相互ノ聯絡ニ関スル方法、演習制度乃至指導教官制度ニ関スル問題、学生課ノ組織機能ニ拡充等、教練組織・修養施設ニ関スル問題、学友会・運動会等ノ改組」が審議された。(三五〇―三七三頁) ちなみに、私大会議の主たる議題は、教授の教育者としての責任に関する問題、大学の組織に関する問題、学生の修練組織強化に関する問題、学生生徒の風尚刷新に関する問題、学校教育と学校経営との関係に関する問題などであり、最後の項目を除けば、帝大会議の議題と共通していた。

(なかの みる 元東京大学史料室室員・立教大学史料室)